

# デイリー・ジーザス・ニュース #199

## エルサレム奉獻祭におけるイエスの宣教

イエスの奇跡は彼が救世主であることを証明している

ヨハネ10.22-26

22 それからエルサレムの奉獻祭(ハヌカ)がやってきました。冬でした。23 イエスは神殿の境内、ソロモンの回廊を歩いておられた。

24 そこにいたユダヤ人たちはイエスを取り囲んで言った。「いつまで私たちを疑わせるのですか。あなたがメシアなら、はっきり教えてください。」

25 イエスは答えた。「わたしは言ったのに、あなたたちはわたしを信じない。わたしが父の名によって行っている業がわたしについて証している。26 しかし、あなたたちは信じない。わたしの羊ではないからだ。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = <sup>MT</sup>、マーク = <sup>M</sup>、ルカ = <sup>L</sup>、ヨハネ = <sup>J</sup>、使徒行伝 = <sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレム神殿群のソロモンの列柱
タイムライン	奉獻祭、12月19日(35ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第六段階: イエスの後期ユダヤ教宣教
	E.エルサレム奉獻祭におけるイエスの宣教
タイトル	3. イエスの奇跡は彼が救世主であることを証明している

コメント:

イエスは12月、奉獻祭、すなわちハヌカのためにエルサレムに戻りました。この8日間の祝祭は、モーセが律法で定めた7つの祝祭の一つではありませんでしたが、イエスの時代には既にユダヤ教の敬虔さと慣習に深く根付いており、今日でもユダヤ人の間で広く親しまれている祝祭です。ルカによる福音書にのみ記された長い記述の後、ヨハネによる福音書に戻り、この祝祭におけるイエスの宣教活動について簡潔に説明します。

## デイリー・ジーザス・ニュース #199

「奉獻」は、紀元前165年にマカバイ家（同名の4人の兄弟に率いられた自由の闘士集団）によって神殿が清められ、再び奉獻されたことを記念するものでした。当時パレスチナを支配していたギリシャ系シリア人の支配者、アンティオコス・エピファネスは、神殿に侵入し、祭壇で豚を犠牲に捧げることで神殿を汚しました。これがマカバイ家による3年間に及ぶ反乱のきっかけとなり、あらゆる困難を乗り越え、ユダヤ人がアンティオコスに勝利し、神殿は再び奉獻されました。

紀元前165年の再奉獻式では、聖所の燭台に灯す油は1日分しか残っていませんでしたが、奇跡的に8日間燃え続け、新しい聖油が準備されるまで燃え続けました。そのため、この祭日は常に8日間祝われ、「光の祭日」とも呼ばれました。この祭日は、仮庵の祭りと並んで、福音書においてイエス。のメシアとしての働きを象徴する光の役割を改めて強調するものでした

興味深いことに、この祭りでイエスが語った時、9月の仮庵の祭りで宣教を終えた「善き羊飼い」というご自身のイメージにすぐに戻られました。この時、イエスは羊を世話する羊飼いとして、父なる神との一体性を強調されました。

今日の朗読の中で、イエスはユダヤ人の指導者たちに、ご自身の神性を示す数々の奇跡を思い出させました。イエスがなさったことは神だけがなさることができるので、イエスは神でなければなりません。しかし、父なる神を認め、信じる真の羊だけが、イエスの中に同じ神を見ることができました。イエスを通して神と関係を持つことは、神の声を聞き、神の真の姿を認識するための前提条件でした。

この世のあらゆる証拠をもってしても、人々が否定することを前提としている真実を納得させることはできません。イエスは、自分が旧約聖書のヤハウエ、すなわち唯一真実にして生ける神であるという主張を裏付けるために提示した証拠が、十分すぎるほどの証拠であると信じていました。時代を超えて、何十億もの人々がイエスが真実を語っていると断言してきました。不信仰の問題は、イエスの神性を示す証拠の質ではなく、人々が真実の帰結に向き合おうとしないことにあります。

もしイエスが神であるなら、私たちは彼を信じ、従う義務があります。それが問題の核心です。罪深い人々は神に責任を負い、従うことを望みません。私たちはいわゆる神からの独立を優先します。ユダヤ人の指導者たちが「あなたがメシアであるかどうか、はっきりと教えてください」と求めたことは、そもそも行動を起こすつもりもないのに情報を求めることの偽善を露呈しています。

応用：

宗教は危険なものになり得る。これらの指導者たちは神殿、社会における強力な役割、伝統、そして国家の遺産を愛していた。それらはすべて、表面上は彼らの神であるヤハウエと宗教を中心に展開していた。

しかし、ヤハウエが人間の姿をとって彼らにはっきりと御自身を現されたとき、彼らの民族的、宗教的な偏見は、神を真に愛し、知る能力を失わせました。彼らはイエスを拒絶することで、自らを拒絶していたのに、そのことに気づいていませんでした。

あなたの信仰生活が、イエスの真理を見えなくさせているのではないのでしょうか。それについて、どうすればよいのでしょうか。